英国の子どもを対象とする施設訪問アドボカシーの方法

—インタビュー調査から—

○ 大分大学 栄留里美 (会員番号 007686)

キーワード3つ: アドボカシー, 英国, 児童福祉施設

1. 研究目的

英国では意見表明権の保障に重きを置いた外部の独立機関による子どもアドボカシーサービス(Children's Advocacy Service)の提供が自治体に義務付けられている(栄留 2015)。子どもアドボカシーサービスとは独立性, 守秘, 子ども主導, エンパワメントを実践原則として, 第三者機関に所属するアドボケイトが実施するものである。その一部である施設訪問アドボカシー(Residential Visiting Advocacy)は定期的に施設を訪問し, 子どもの思いを聴き, 子どもが施設や関係機関に意見を表明できるように支援する事業である。

日本でも施設訪問アドボカシーは子どもの意見表明権を保障する仕組みとして一定ニーズが確認されている(堀編 2018)。さらに, 「新しい社会的養育ビジョン」(2017: 55)では, 「社会的養護を受けている子どもへの訪問アドボケイト事業」がモデル事業として今後展開される可能性が明示されている。このように実施が日本でも期待されつつあるが, 実践方法の開発は今後の課題である。他方訪問アドボカシーの先進地である英国でも, 施設訪問アドボカシーの実践方法については研究が蓄積されていない。そこで, 英国の実践者・トレーナーを対象にインタビュー調査を実施し, 施設訪問アドボカシーのプロセス及び実践方法を明らかにすることが本研究の目的である。

2. 研究の視点および方法

調査対象者はアドボカシーサービス実践者・トレーナーの7名であり, 調査期間は2017年8～9月であった。障害児施設・精神保健ユニット(Mental Health Units)・セキュアユニット(Secure Units)への定期訪問に関与する方々である。インタビュー時間は2時間～4時間であった。調査は半構造インタビューで実施した。定期訪問によってどのように, 子どもたちと出会って説明をし(役割説明), 子どもたちの声を引き出し(意見形成), 施設や関係者に子どもたちの声を表明しているのか(意見表明)が主な質問項目であった。正確性を担保するため, 現地の有資格通訳者に通訳を依頼した。

分析方法は, 探索的研究に適したKJ法を参考に, 逐語録から意味を見出すことのできる文脈を抽出し, サブカテゴリー, カテゴリー化し, サブカテゴリー間の関係性を整理した。

3. 倫理的配慮

調査対象者に対して調査目的・秘密保持・インタビュー録音について口頭と文書で説明

し同意を得た。なお、日本社会福祉学会の「研究倫理指針」を遵守した。

4. 研究結果

①役割説明・・・「アドボケイトの仕事の50%位かなという気がします。」と述べられるほど、説明は重要だと語られた。施設や病院では新しい入所者がいること、アドボカシーがオプションであることを理解してもらい「リラックス」した中で利用してもらうために行っているという。

②意見形成支援・・・訪問しても遊びになってしまうことが最初にあったと述べ、遊びに終始しないよう境界を設定>することが語られた。そのために、子どもからの相談を待つのではなく、施設の食事、設備、職員、ソーシャルワーカーとの関係等を積極的に質問をして、ニーズを顕在化>する。ジェンガを使って相互に質問する、「魔法のじゅうたんがあったら、どこに行く？誰を連れていく？どこに行く？」「あなたにとって、パーフェクトな1日というのはどんなの？」といった質問をすることで考えてもらうという。

また、<いつもと言動が異なる子と面接>をし、子どもの思いを聴く。障害児には<施設のマップづくり>で危ない場所に×をつける手法や<好き・嫌い・したいこと>を尋ねる。意思確認が困難な場合にのみ、意思能力の判定をトピックごとに行い、観察によって「最善の利益」を検討する。

③意見表明支援・・・<子どもの言葉>を用いて意見表明を行うことは子どもの伝えたいことを伝え、影響力を与えられる。他方、アドボケイトがすべて代弁するのではなく、施設職員に要望を伝える際に子どもたちに<交渉の助言>を行い、子どもたち自身で解決した例が語られた。施設職員やソーシャルワーカーから回答を得られた後は<子どもからフィードバックをもらう>。子どもから要請があれば、<苦情申し立ての次の段階を支援/弁護士につなぐ>ことが語られた。

5. 考察

施設訪問し子どもの希望や援助方針、施設に対する苦情が出てくるのを待つのではなく、子ども自身がニーズに気づけるようにアドボケイトから積極的な働きかけがなされていることが分かった。その働きかけの方法の一端が今回の調査で明らかにできた。

付記：本研究は JSPS 科研費研究課題番号 17H02617 の成果の一部である。

引用文献

新しい社会的養育の在り方に関する検討会（2017）「新しい社会的養育ビジョン」厚生労働省。

栄留里美（2015）『社会的養護児童のアドボカシー—意見表明権の保障を目指して—』明石書店。

堀正嗣編著（2018）『独立子どもアドボカシーサービスの構築に向けて—児童養護施設と障害児施設の子ども職員へのインタビュー調査から』解放出版。